
近森リハビリテーション病院言語療法科

科長 矢野 和美

はじめに

2020年は、入院配属21名、外来配属3名（科長・科長補佐含む）でスタートした。1年間でのスタッフの出入りは、退職2名、入職2名、産休入り1名、育休からの復帰2名であった。8月には本院とのローテーションに伴い院内異動を実施した。

診療報酬改定で新たに「摂食嚥下支援加算」を算定するにあたり要件に応じたシステムの運用を4月から開始している。

2020年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、業務や個人の行動が大きく様変わりした1年であった。

業務の効率化に関しては、スタッフの意識が高まり実践に繋がってきている。

【業務・運営】

1. 実績

入院・外来における言語聴覚療法の月別実施単位数を図1・図2に、摂食機能療法（入院）の月別実施件数を図3に示す。

入院部門では、年間を通してみると例年に比べ言語聴覚療法・摂食機能療法の対象となる患者が少ない月が多かった。感染拡大予防策として、従来のフロア間を行き来するフォローはせずにフロア完結としたが、逼迫した状況には至らなかった。

外来部門では、開始時に設定した目標と期間に応じ次の活動の場へつなぎ、嚥下造影検査も必要に応じ行った。

入院・外来ともに、感染拡大予防策として家族の訓練同席を禁止したことで家族との情報共有に難渋している場面を目にすることが多かった。

2. 教育

新人対象の勉強会は、リハビリテーション部全体で行う卒後研修会のみで、言語療法科では現場でオリエンテーションを兼ねて行った。

言語療法科全体の勉強会は院内の感染症拡大予防策に則り全て中止とした。

高知リハビリテーション専門職大学の石川裕治氏の来院は院内の感染症拡大予防策に伴い見合わせた。

【言語友の会】

例年行っている親睦会は感染拡大防止のため実施しなかった。失語症者の新たな交流の方法を模索している。

【おわりに】

2021年も感染症拡大予防策は引き続き実施されると思われ、条件の中で臨床の質を落とさないよう、課題を検討し工夫を継続していく。

また、スタッフの教育に向け改訂したラダーを活用していきたい。

図1. 言語聴覚療法月別実施単位数（入院）

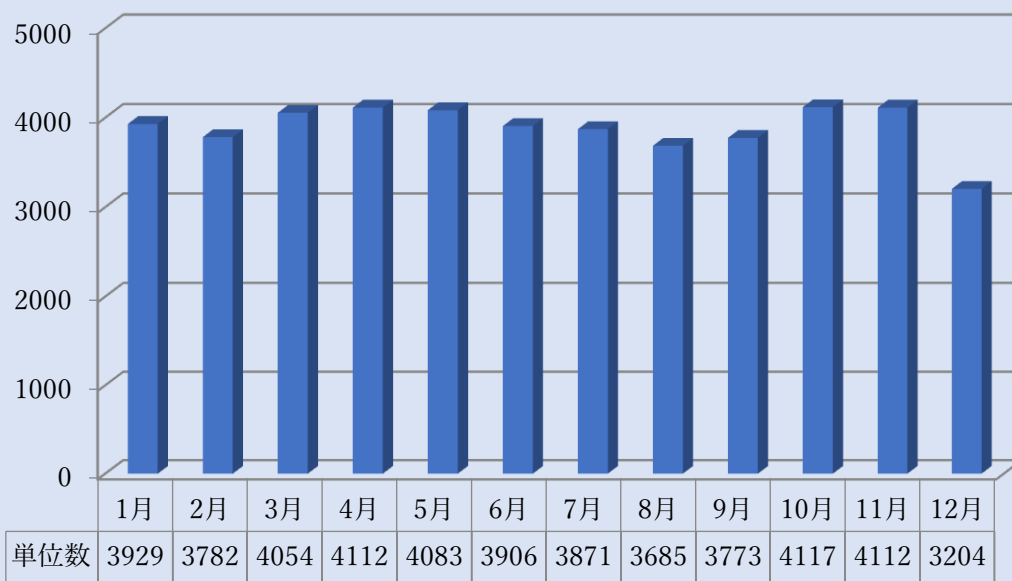


図2. 言語聴覚療法月別実施単位数（外来）

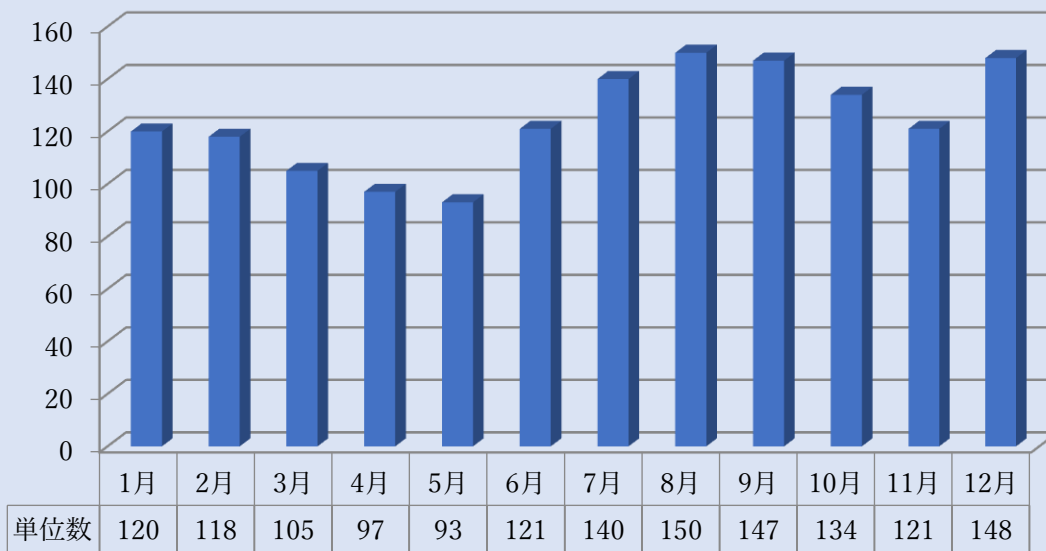
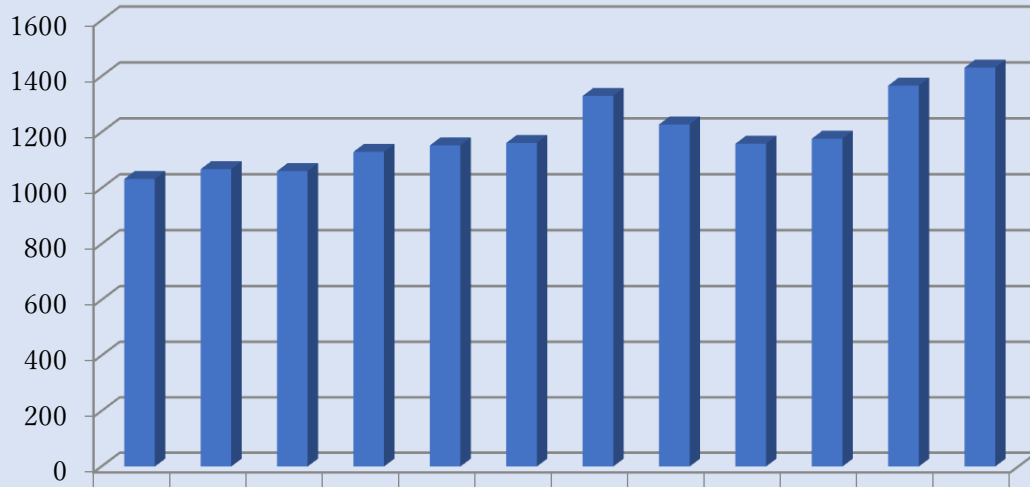


図3. 摂食機能療法実施件数（入院）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
件数	1033	1068	1061	1130	1153	1162	1330	1228	1159	1177	1367	1431